

The Three Generations



チタニウムと新世代のMTB
新世代のMTBの登場

ここ数年、スコットランドへバイクで下りつづけることを考えていた。4年前に、古い友人のステイブ・ピートと、アイリッシュ・コナック・クローリングをやったとき、一度はワイスキーウェア「だ」と、なんて言っていたのを覚えている。思ったより時間がかかった。外から見たらイギリス連邦とはいえず、今もスコットランドは独自の文化と言語をもつ。だから、情報収集には時間が必要だった。それでもなんとかスケジュールがまとまったころ、もう一人加えようって話になった。

スコットランドの歴史と文化

ヘリライド特有の高揚感に、ステイブも笑顔を抑えきれない。いくつもの丘を越えるクロカンライド。軽いバイクを持ってこなかったダンニーは、訓練の時に、アイリッシュ・ドナウ域でワイスキーウェアのダンニー。大量のバイクや撮影機材を持ち込んだ我々をサポートしてくれたHGアドベンチャーズ。スコットランドらしい湖沼地帯

イター・Yon Tubeで、年間に2000万回もオンエアされているムービーの主人公、ダンニー。返事で参加してくれることになった。私とダンニーの年齢差がほぼ20歳。ダンニーが35歳だから、奇しくも3世代が揃うことになったが、どんな旅になるのだろうか？

湖と霧とウイスキーの国のトレイルライド

三世代が往く! スコットランドのトレイル

トライアルチャンピオンとして名声を得たあと、そのテクニックを生かしてアドベンチャーツアーを主催するハンス・レイ
今年44歳の彼は、練りに練ったスコットランドのトレイルツアーを、ついに実行した。
相棒は30代のダウンヒルチャンピオンと20代のムービースター。3世代によるトレイルツアーは成功したのか?

PHOTO: Andy McCANDLISH
STORY: Hans REY
TEXT: Hideyuki SUZUKI

ons in Highlands



ハンス・レイ
Hans REY

1966年6月4日生まれ
ドイツ・ケンジゲン出身
元トライアルチャンピオンにしてアド
ベンチャーライダー。GTバイクと
の関係は途切れることなく四半世紀に
もおよび、新車開発にも大きな影響力
をもつ <http://www.hansrey.com/>



ダニー・マッカスキル
Danny MacASKILL

1985年12月23日生まれ
スコットランド・エジンバラ出身
ローカルバイクショップ店員がYou
Tubeへのムービー投稿をきっかけに、
レッドブルのサポートを受ける世界的
な人気ライダーになった。
<http://www.dannymacaskill.co.uk/>



スティーブ・ピート
Steve PEAT

1974年6月17日生まれ
イギリス・サウスヨークシャー出身
イギリスが誇る2009年DH世界チャ
ンピオン。ハンスとはGT在籍時から
の友人。2011年から自身の育成チ
ーム Steve Peat Syndicate を始動
<http://www.stevepeat.com/>

そびえるシンボリ
ールドマン・オ
を巡る3人。島で
それでも標高は
はわずかに内海と
める

若さで押すダニーに、パワーは
一丁。それぞれのバックグラ
ウンドや、バイクチョイスは異な
っても、走り出せば自然に
リズムが合ってくる。トレイル
ライドならではの楽しみだ



「海濱キャンプ」の地帯へお礼

「七ヶ浜」が育んでくれた。また、その
「ハルマ」には、海軍時代のBBQセッ
トが、雨に打たれながらのプレ
イブ、イギリス紳士は、傘を持たず
の、海濱キャンプの、海濱キャンプ
を手につく、ハルマ、ハルマ、海濱に
来た、ハルマ、ハルマ、海濱に
今日の、海濱キャンプは、海濱に
や、海濱に、海濱に、海濱に
ハルマ、ハルマ、海濱に、海濱に
海濱に、海濱に、海濱に、海濱に

持てるワザを駆使して 北の大地を走り尽くせ!

ツアーは、アクシデントからスタートした。アイスランドの火山噴火の影響でピーティの到着が遅れたのだ。ダニーと私は、一足先にアイリッシュ・ドナン城に出かけて、日が暮れるまでトライアルセッションを楽しんだ。

深夜にはピーティも合流。翌朝早く、今回のメインとなるスカイ島へと渡り、島の最北端ターラングでのライドに出発した。雲の動きは早かったが、太陽は最後まで我々を見送ってなかった。

トライアルを楽しんだあとは、もう一つの目的地であるウイスキーの蒸留所を目指す。この島のバーでは、350種類のものウイスキーが飲めるという。我々を連れてくれたタリスカー蒸留所は、最も強烈でモルトの原点と言われるウイスキーを用意してくれた。

翌日ダニーが150年前に実在した巨人、アングラス・マッカスキルの記念館を案内してくれるという。ひよっとしたらと思ったが、やはりダニーは彼の子孫だった。残念ながら先祖ほど音は伸びなかったようだが、祖先に負けない名前は得ている。

夜になって雨が降ってきたが、我々は止まない。幸い次の宿泊地につく頃には雨も止み、我々のキャビンは幻想的な風景を見せてくれた。



1



2



1

古の城塞で トライアルセッション

1.ランチバックに入っていた「ようこそ」の文字。待ちに待ったツアーの開始だ! 2.アイリッシュ・ドナンは、バイクの侵入を防ぐために築かれたスコットランドで最も有名な城だ



2

「霧の島」を 駆け巡る3人

1.ザッツXCライド。ゆるやかなシングルトラックがひたすら続く。2.メニューがちよっとおかしな屋台でランチブレイク。3.ハイカーとバイク談義で盛り上がる。誰も「No Bike!!」なんて言わない

The Three Generations in Highlands

晴れのち雨、時々ウイスキー これぞリアルXCライド



ダニーの先祖はキリスト教の聖人!

スコットランドの高地には、数百年前から存在する、古い石造りの建物がある。ダニーの先祖が住んでいた建物



3



2



1



4



5

バイクと伝説の巨人

1日中走り回った。車道を前に突いて、2.ケル海と英海軍の戦い。3.ケル海と英海軍の戦い。4.ケル海と英海軍の戦い。5.ケル海と英海軍の戦い。6.ケル海と英海軍の戦い。7.ケル海と英海軍の戦い。8.ケル海と英海軍の戦い。9.ケル海と英海軍の戦い。10.ケル海と英海軍の戦い。11.ケル海と英海軍の戦い。12.ケル海と英海軍の戦い。13.ケル海と英海軍の戦い。14.ケル海と英海軍の戦い。15.ケル海と英海軍の戦い。16.ケル海と英海軍の戦い。17.ケル海と英海軍の戦い。18.ケル海と英海軍の戦い。19.ケル海と英海軍の戦い。20.ケル海と英海軍の戦い。21.ケル海と英海軍の戦い。22.ケル海と英海軍の戦い。23.ケル海と英海軍の戦い。24.ケル海と英海軍の戦い。25.ケル海と英海軍の戦い。26.ケル海と英海軍の戦い。27.ケル海と英海軍の戦い。28.ケル海と英海軍の戦い。29.ケル海と英海軍の戦い。30.ケル海と英海軍の戦い。31.ケル海と英海軍の戦い。32.ケル海と英海軍の戦い。33.ケル海と英海軍の戦い。34.ケル海と英海軍の戦い。35.ケル海と英海軍の戦い。36.ケル海と英海軍の戦い。37.ケル海と英海軍の戦い。38.ケル海と英海軍の戦い。39.ケル海と英海軍の戦い。40.ケル海と英海軍の戦い。41.ケル海と英海軍の戦い。42.ケル海と英海軍の戦い。43.ケル海と英海軍の戦い。44.ケル海と英海軍の戦い。45.ケル海と英海軍の戦い。46.ケル海と英海軍の戦い。47.ケル海と英海軍の戦い。48.ケル海と英海軍の戦い。49.ケル海と英海軍の戦い。50.ケル海と英海軍の戦い。51.ケル海と英海軍の戦い。52.ケル海と英海軍の戦い。53.ケル海と英海軍の戦い。54.ケル海と英海軍の戦い。55.ケル海と英海軍の戦い。56.ケル海と英海軍の戦い。57.ケル海と英海軍の戦い。58.ケル海と英海軍の戦い。59.ケル海と英海軍の戦い。60.ケル海と英海軍の戦い。61.ケル海と英海軍の戦い。62.ケル海と英海軍の戦い。63.ケル海と英海軍の戦い。64.ケル海と英海軍の戦い。65.ケル海と英海軍の戦い。66.ケル海と英海軍の戦い。67.ケル海と英海軍の戦い。68.ケル海と英海軍の戦い。69.ケル海と英海軍の戦い。70.ケル海と英海軍の戦い。71.ケル海と英海軍の戦い。72.ケル海と英海軍の戦い。73.ケル海と英海軍の戦い。74.ケル海と英海軍の戦い。75.ケル海と英海軍の戦い。76.ケル海と英海軍の戦い。77.ケル海と英海軍の戦い。78.ケル海と英海軍の戦い。79.ケル海と英海軍の戦い。80.ケル海と英海軍の戦い。81.ケル海と英海軍の戦い。82.ケル海と英海軍の戦い。83.ケル海と英海軍の戦い。84.ケル海と英海軍の戦い。85.ケル海と英海軍の戦い。86.ケル海と英海軍の戦い。87.ケル海と英海軍の戦い。88.ケル海と英海軍の戦い。89.ケル海と英海軍の戦い。90.ケル海と英海軍の戦い。91.ケル海と英海軍の戦い。92.ケル海と英海軍の戦い。93.ケル海と英海軍の戦い。94.ケル海と英海軍の戦い。95.ケル海と英海軍の戦い。96.ケル海と英海軍の戦い。97.ケル海と英海軍の戦い。98.ケル海と英海軍の戦い。99.ケル海と英海軍の戦い。100.ケル海と英海軍の戦い。

いつまでも走ってたい
美しいトレイル

トレイルライドの魅力は自分のペースで走れるところ。誰に追われるわけでもなく、好きなスピードでその土地を楽しみたい。スキルを磨けばなお楽しい



世代を超えたストリートセッション

1. ケアンゴームス国立公園の北にあるアヴィモア。ダニーが遊んだパークでジャム。ニュースクールvsオールドスクール? 2. トリアルシヨのお約束。いつもはやるほうのダニーだが、立場が変わるとガチガチ。3. さらに突然乱入してきたピーティに驚くダニー

バイクと仲間たちと
すべてに感謝

ダニーとのジャムを終えてすべての予定が完了。誰もケガをせず、トラブルもない笑顔の絶えないツアーだったことに安堵。ピーティと握手を交わすうちに、不覚にも涙がこぼれた。今回のロードトリップはムービーとしても公開される予定



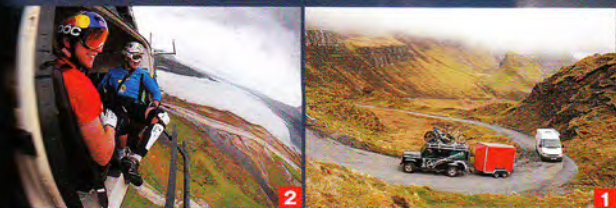
世界を走り抜けるハンスからの提言

世界中をバイクで旅してきた私は、バイクが人々の生活に役立つところか命を助けることもできることを知り、2005年に妻とWheel 4 Lifeをスタートさせた。送料も含めて150ドルの自転車があれば、医者が往診できるエリアが広がり、子供たちが通学できるのだ。もし興味をもってくれたなら、私のサイトを訪れて、何が行われているか知ってほしい。



www.wheels4life.org

The Three Generations in Highlands
年齢なんて関係なし!!
MTBが紡いだエピックライド



セップを締めくるヘリライド

●イランド地方の奥座敷? 北海を望むことができる街トードン。標高こそほどだが一年中登山客で賑わい、冬には残念なことに遭難者もでるといふ。●ネスで固定されているとはいえ、ドアのないヘリに最初は2人とも緊張。街が小さくなって海が見えてくるころには、撮影用のポーズを取る余裕も出てきた



イギリスの王に率いられた2人

1. デビューしたてのカーボンダウンヒルバイクで飛ぶピーティ。ペダリングセクションもスムーズ。時には我々の後ろについてフォローしてくれた。2. ダニーも次第に余裕が出てきて、ピーティをびつたりマーク。3. ビート教授のライディング講座。ラッキーな生徒はダニー



ヘリダウンヒルの次はダニーの地元で大暴れ

美しいスカイ島を後にした我々は、北上してトードンへと到着した。

イギリス本土とはいえ、ここまで来ると全く別世界。我々のキャビンにはスカイ島の時と同じくらい静かな場所があり、またしてもウイスキーを片手に宴をするには最高の場所だった。

翌朝は曇っていたが問題ない。駐車場の向こうにはヘリコプターが我々を待っている。そう今日はトードンの山頂からダウンヒルをするのだ!

いつものスタイルに戻ったピーティ

はリラックスしていたが、私とダニーは正直少し不安だった。

だが標高1000mからのダウンヒルは快適そのものだった。世界チャンピオンの後ろを走る。こんなクールな経験は滅多にあるものじゃない。

ハイランドのトレイルを存分に楽しんだ我々は、最後にダニーが昔住んでいた街アヴィモアでストリートジャマをすることにした。ダニーと私は昔からの知り合いのようにトリックを褒め合い、途中からピーティも参加してきて笑って半日過ごした。

結局MTBさえあえば、年の差なんて最初っから関係なかったのだ。

トードンだけでなく、自然の中
ダニーのイメージネーション
ライディングスタイルは
これからもさまざま
で、我々を楽しませて